



## 2学期の目標 「挨拶」「返事」「履き物をそろえる」

4月の入学式の校長式辞で、新入生（在校生）、及び保護者に次の3点をお願いしました。それは、①「挨拶」②「返事」③「履き物をそろえる」という「しつけの三原則」です。

「あいさつ」は、人間関係の基本として身につけておかなければいけないことです。また、「返事」は、自分の考えや意志をしっかり持ち、相手の話を素直にきちんと聞くことにつながります。そして、自分の「履き物をそろえる」ことは、そのまま自分の心を整理整頓させ、心にゆとりを持たせ、けじめのある行動が取れるようになるはずです。



2学期も引き続き、3点に気をつけて家庭生活や学校生活を送ってほしいと思います。

「しつけの三原則」（森 信三：愛知県知多郡武豊町出身・京都帝国大学卒）

1. 朝、必ず親に挨拶をする子にすること。
2. 親に呼ばれたら必ず、「はい」とはっきり返事のできる子にすること。
3. 履き物を脱いだら、必ずそろえ、席を立ったら必ずイスを入れる子にすること。

## 「何のために」 目的を明確にする！



目標を立てることは、充実した人生を送るのに大切なことです。目標を設定して物事に取り組むことで、何をやるべきかが明確になり、そこに向かって努力を重ねることができます。自己成長にもつながります。

しかし、目標設定だけで本当にいいのでしょうか。例えば、努力して大学に合格したものの、気が抜けて勉強しなくなるのは、よくあるパターンです。また、目標をクリアするという思いが強すぎるあまり、周囲への配慮が欠け、対人関係が悪化させてしまうこともあります。何キロ、ダイエットするという目標を立てたものの、無理な運動で膝や腰を痛めてしまう人もいます。

このようなことが起こる一因に、「何のために」という目的意識が欠けていることが挙げられるでしょう。目標は、目的を叶えるために過程であり、道標です。何のために挑戦し続けるのか、なぜそこを目指すのかという目的がしっかりあるからこそ、的確な目標が見いだされて、そこに向かう努力がより意味を持つてくるのでしょうか。物事を進める際には、まず目的を明確にすることです。

やるぞ!!



©イラストレーター